

37 - 19 Q T A T生産技術への挑戦

衝撃・極限環境研究センター 教 授 久保田 弘
電気システム工学科 助 教 授 中 田 明 良
大学院自然科学研究科 後期課程 若 杉 雄 彦
他

熊本地域は半導体製品の日本全体の1割強を生産する地域である。生産技術のイノベーションは微細化、設計コスト低減、マスクコストの削減を行いながら多品種少量生産と短工期(Q T A T)に対応する必要がある。1999年より熊本大学を中心に取り組んできた熊本地域結集型共同研究事業において、その道具立てについて多くの提案がなされてきた。その目標は設計・プロセス加工・検査修正を一体化してQ T A Tに製品をマーケットに投入すること、新しいアイデアに果敢に挑戦できる試作環境を構築すること、すなわちQ T A T生産拠点を目指している。これにより日本の製造技術を地方から活性化し、その技術力で生産拠点のアジア各地との有効なパートナーシップを構築できる。

(技術総合誌OHM 2004.5)